



第 13 号
 平成 20 年 4 月 10 日
 発行 岡山白陵同窓会
 〒709-0715
 岡山県赤磐市勢力 588
 TEL. 086(995)1255

チーム岡山白陵

校長 山本 隆文

昨年は栄えある三十周年を祝賀する記念行事に全面的にご協力賜り真にありがとうございます。お陰を持ちまして、記念式典をはじめとした記念行事を立派に実施することができましたし、「岡山白陵生の像 陵友」と「校章の碑」も本校の新たなシンボルとなりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、現在本校に在籍している生徒のうち、兄弟姉妹の在学者総数は156人(77家族)で、全校生991人の実に15.7%にもなります。これは本校に入学した生徒が、本校の教育、つまり、学業と人格形成の両立を真剣に追求する理想的な教育及び全身を傾けて生徒に向き合う教師集団の素晴らしさを実感し、その結果兄弟姉妹が相次いで本校を希望するという良い流れの結果であることは間違いないところであります。

次に、今年の春、見事志望の大学に合格した諸君に「合格できた最大の要因は？」と尋ねてみると、例外なしに「友人、保護者、先生をはじめ周りの人々の支援と励ましがあったからこそ、最後までがんばることができたと思

ます……」という答えが返ってきました。これは栄冠を勝ち得たからこそ言える科白ではありません。しかしながら、「欠席すると心配して声をかけてくれる級友が必ずいる、スランプに陥ると励ましてくれる先生がいる……」これが現実の姿であって、一人一人の生徒が孤立した学校生活を送ったり、孤独な受験勉強をしているわけでは決してない、この事実をもっと認識して、チームとしてお互いに支え、支えられしながら自己実現を目指していく、これこそ岡山白陵のあるべき姿であると考えています。生きていくうえで最も大切な人間関係が希薄になってしまった現代社会において、「チーム岡山白陵」として、濃密な人間関係を構築していく、これこそが本校躍進の原動力の一つになると信じております。

今春は、国公立大医学部はよく健闘しましたが、東京大学が不振で同窓会の皆様には随分ご心配をおかけしたところと思います。来春以降は二度とこのような悔しい思いをすることがないようにと学校あげて対策を考え、全力を尽くしているところでございます。

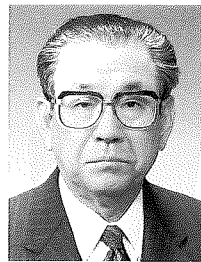
同窓会の皆様におかれましても、「チーム岡山白陵」の強力な一員として、母校を見守り、ご支援賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

(注：本文は平成十九年十二月現在のもの)

お慶び 前校長田野勝彦先生が平成十九年春の叙勲で瑞宝小授章を受賞されました！

岡白卒のプライドを

前校長 田野 勝彦



昨秋、記念すべき第一回総会が開かれ、その後、創立三十周年記念として校章の碑を設立されました。更に、会報の特別記念号を発行される等、同窓会の活動が実に活発に展開されており、心からお喜び申し上げます。

さて、現在四千百九十五名に上る卒業生の皆さん、国内は勿論、海外でもそれぞれの分野に於て、獅子奮迅の御活躍振りであろうと思いを巡らせています。そして、そのルーツは岡白の中高時代、立派な先生や友人との魂の触れ合いを通じて人生の基礎基本を学ばれたことであると確信しているところです。

現在の我が国は、政治・外交・社会・教育などの面に於ても正に憂慮すべき事態に立ち至っています。在職中度々「二十一世紀の日本を救うのは諸君だ」と叫び続けましたが、

そのリーダーとしての重要課題は各自の情熱と人間性の延長でありましょう。人生でもっとも重要な人格形成期を本校で過ごされた皆さんは、強いバックボーンの主役のはずです。岡白卒という大きなプライドを深く胸に秘めながら、更に御発展あらんことを切に祈っています。

次に、この度、同窓会幹事の先生より御依頼がありましたので御報告致しますが、今春の叙勲で全く図らずも瑞宝小授章(旧勲四等)受賞という栄に浴しました。昭和二十八年以来九校五十三年に及ぶ長い歳月、教育一筋でありました。今、ささやかな自分史を書き綴っていますが、この受賞は実に多くの出会いの中でお世話になった方々の御指導・御支援の賜と深く感謝申し上げます。ところで、今それを思い返し感無量、御恩は生涯忘れません。

人生の幸福の度合いを計る尺度は人によっていろいろありましようが、私は如何に多くの方と如何に深く交わるかもそのひとつと考え、その点実に幸せであったと痛感しています。なお、幸い今のところ体だけは元気ですので、たとえ少しでも、それこそ世のため人のためにお役に立ちたいと願っている昨今です。

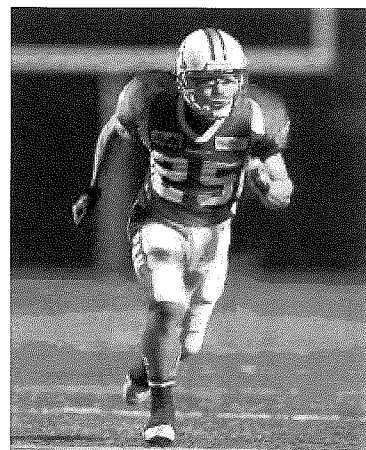
最後にになりましたが貴会の益々の御発展を衷心よりお祈りしています。

18期卒業生、アメフト日本代表に!

今年の夏、本校18期卒業生の前田一之さんがアメフトの日本代表に選ばれ、ワールドカップに出場しました。前田さんからメッセージを頂いていますので紹介します。

《前田一之さんより》

岡山白陵高等学校18期生の前田一之と申します。7月に川崎市で開催された第3回アメリカンフットボール・ワールドカップに日本代表選手として出場し、OB会報執筆の声をかけていただきました。日本では馴染みが浅いかもかもしれませんが、W杯過去2大会は日本が優勝しているのです。とはいえUSAは不参加。今回ついにUSAが登場し、打倒USAの使命を背負って決勝でUSAに挑みましたが、タイブレイク(延長戦)の末、23-20で惜敗。新しい歴史は作れませんでした。率直な感想としては、身体能力の違いをもの感じました。「デカくて速い! ヒットのパワーが違う!」しかし私たちは、USAを倒すために4ヶ月かけてチームを作り、緻密な戦術、スキル、何より強い気持ちをもって果敢に挑めたと思います。



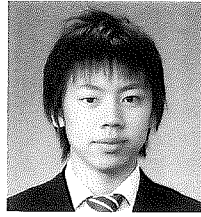
岡白時代は柔道部に所属し、大学(慶応義塾)からアメフトを始めました。今は社会人リーグ(Xリーグ)オンワードスカイラクス(OS)に所属しています。社会人選手権や日本選手権のビッグゲーム前には必ず森本先生に電話をして気合いを入れていただきます。岡白時代も今も一緒です。社会人になってもアメフトを続けられる気力と体力は、中高6年間を岡白で心身成長させてもらったからと言い切れます。敗戦は本当に悔しいですが、「JAPAN」という夢が叶い、また「4年後もJAPAN入り。USAに勝つ」という新しい目標ができました。夢が叶ったのはOSのおかげ、フットボールを通して出会えた人たちのおかげ、支えてくれるみんなのおかげです。今はまた日本一を目指して、OSでリーグ戦を戦っています。やっぱりスポーツの感動は最高です。まだまだ現役。応援よろしくお願いします!

New face!?

この春から、岡山白陵高校・中学校に、卒業生教員が二人も増えることになりました。同窓会の校内幹事も一挙に倍増！ということで、以前の校内幹事は大喜びしています。そこで、今回はお二人に自己紹介をしていただくことにしました。

母校へ

浅野 裕司 (22期)



今年度の四月から、岡山白陵に赴任しました浅野裕司と申します。紹介にもある通り、私自身、22期卒業生なので、懐かしい思いもしています。昨年度まで新潟県で勤務していましたが、縁あって戻ってくることにになりました。

私が中学校に入学した頃はまだ学ランで、中には指定の帽子を身につけて登校している生徒がいたり、管理棟も部室もなく、体育館の下で授業をしている高三を見て、いつか自分もあそこで勉強することになるのか...と思ったりしたものです。東大の合格者も入学当時は一桁だったの

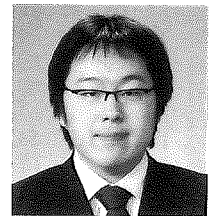
が、今や二十人を超えるほどになっており、私が入ったころより、生徒の目標も高くなっています。このように成長してきたのも、先生と生徒がうまくかみ合って、力を発揮できた結果なのでしょう。

さて、このような状況の中で教鞭をとることになったわけですが、卒業生として、今まで先輩・後輩が築き上げてきた岡山白陵というブランドをさらに発展させたいということ強く思っています。周りの流れに流されてしまうことのない、「自分」をしっかり持った生徒を育てていくのに、少しでも役立てればと思います。

ところで、同窓生の皆さんはたまには学校に顔を出していますか？(私は卒業してから年に一回は訪れていました!)ほとんど来たことがなければ、いろいろ変わっていて驚くと思いますよ!また、同窓会のホームページもあって、そこに同窓生への連絡を載せることもあるようなのでチェックしてみてください。就職するとますます母校が遠くなっている方も多いと思いますが、運動会などいらっしやってみてはいかがでしょう?皆さんが教わった先生方の多くはまだまだ現役で頑張っいらっしやいます。多くの同窓生が母校に来られることを楽しみにしています。

母校に着任して

福田 雄太 (25期)



今春より、母校に着任しました25期卒業生の福田雄太と申します。昨年母校で教育実習をさせて頂き、縁があり本年より母校で教鞭をとることになりました。

卒業生教員ということで、自己紹介をせよとこの紙面をいただきましたが、私が生徒に平日頃伝えていることを掲載させて頂き、自己紹介に代えさせていただきます。それは、「勉強だけで三年間・六年間を終わらせるな。」ということですが。

同窓生の皆さんは、岡山白陵で過ごした三年、あるいは六年間、どういった生活を過ごされたでしょうか。勉強だけの三年間、六年間でしようか。勉強か。もちろん、勉強に打ち込んで過ごされた方もいらっしやると思いますが、大半の皆さんは勉強しかない時間だったという思いを持つてはいらっしやらないと思います。

私自身、岡山白陵在学中に勉強しかない生活をしてきたわけではありませんが、しかし、大学進学後、私はカルチャーショックを受けました。周りに囲

まれた友人たちと自分を比較すると、中学・高校時代には「ふり」も含め、勉強ばかりしていたことになるだろうと思います。友人たちは、中学・高校時代に様々なことを経験していました。私と比べると遙かに多くの人生経験をもち、様々な趣味を持っています。彼らには高い集中力と、良い意味での要領の良さがありました。様々な趣味を持つているがゆえに勉強も頑張り、その趣味も妥協しないという生活から、集中力と要領の良さを身につけたのだと思います。

私はこの経験から、「集中力と、要領の良さを身につけた」生徒を育てたいと思ひ、教師になろうと決めました。

幸い、この岡山白陵という学校は、新任である私とはともかく、すばらしい教師陣に恵まれ、勉強に関しては何も不自由のない学校です。だからこそ、他校の生徒よりも、生徒自身が努力さえすれば、部活や趣味にも十分に時間を割けるはずだと思っております。

特に、本年度は中学一年生を担当していることもあり、担当している生徒たちには大学入試まで十分に時間があります。そしてまだ「大人になつていく」ということに実感が持てない時期です。この時期だからこそ、「勉強だけでなく、部活をしたり、何らかの趣味を持つたりして、それにも全力投球せよ。」と伝えています。

What's New about Oka-haku!?

今年の岡白も様々な点で変化・進歩しています。今回はその最新ニュースを御紹介します。

・図書室に新コーナー

登場!

図書室に新しいコーナーが二つ、登場しました。「岡山の知性」と「卒業生の広場」です。

「岡山の知性」のコーナーでは、岡山出身の作家の著作が入れ替わり紹介されています。古くは内田百閒や正宗白鳥、緒方洪庵といった文人や科学者、近くは重松清やあさのあつこ、小川洋子、また熊山では永瀬清子など、岡山から発信された知性は意外に多いものへえ、この人も岡山人だったのか、と新しい発見があるかもしれません。



「卒業生の広場」のコーナーでは、卒業生の著作を集めました。まだ情報が少なく、冊数そのものはささやかなコーナーです。しかし、今後学校が歴史を重ねるにつれ、さらにこのコーナーは充実していくことと思いますし、本校がそうした卒業生の活躍の礎で、あり続けたいと願っています。

〈図書室の澤田先生から〉

皆様、初めまして。この度図書館に新コーナーを設けました。

生徒達は、「岡山の知性」では、知っていた作家や芸術家が新たに岡山県出身とわかり、新たな観点やより深い親しみを持って作品に触れています。

また、「卒業生の広場」では、一見堅いイメージのタイトルの本でも、他の本を手にする時とは明らかに違う目の輝きで開いています。まず表紙に印字されている書名、著者名を凝視し、目次を確認し：著者紹介を熟読！してきます。友達と頁を開き「すげえ〜!」と感嘆したり、「先生、どこどこ?」と興味津々に尋ねてきたり。自分に迷ったとき、勉学の壁にぶつかったとき、このコーナーに手を伸ばし、活力を補給する広場になってくれればいいなと願っています。

母校にご来校の際は、図書館にも是非お越し下さいね。心よりお待ちしております。



・上梓本寄贈のお願い

なお、図書館では同窓生の方からの情報を大募集しています。「何期生のどなたがどういった本を」出版しているらっしゃるのか、学校ではまだまだ情報が不足しています。ご存知の方はぜひメールでご紹介ください。また、本を上梓された方、是非是非後輩たちにご自身の世界をご案内下さい。(一冊ご寄贈下さると、ありがたいです。) 共著なさった本や執筆なさった論文の掲載されている紀要なども、もちろん大歓迎です。お待ちしております。

情報の送り先:

〒709-0715 岡山県赤磐市勢力588

岡山白陵高校内 同窓会事務局

mail:address

okahaku-dk@pr4.harenet.ne.jp

・中学放送部、全国大会へ

放送部の中学三年生二人が、第24回NHK全国中学校放送コンテスト岡山県予選会で優れた成績を収め、八月四・五日に東京で行われた全国大会のテープ審査に参加しました。

コンテストの朗読部門には渡邊真衣さんが参加しました。この部門は指定作品の中から一つを選び、自分の表現したい箇所を決め、二分以内で朗読するというもの。渡邊さんは山中恒の「ぼくがぼくであること」を朗読したそうです。

アナウンス部門に参加したのは藤井絵理さん。この部門は中学生生活の中に素材を求め、校内放送用の原稿を四〇〇字以内で読み上げるとい形式。藤井さんは、熊山駅が自動改札化したことで、駅員さんに挨拶をしようという意識が薄らいだ自分に気付き、それを題材に挨拶を呼びかける校内放送を作り上げました。

県予選会では二人ともに優秀賞を獲得。全国大会では残念ながら入賞というわけにはいかなかったようですが、九月十六日の運動会では賞に恥じない素晴らしいアナウンスを披露していました。

・高校三年生 武田君快挙!

高校三年生の武田大典君が、今夏、理科に関する二つの全国大会に出場し、優秀な成績を収めました。

一つは全国高校化学グランプリ2007という大会です。これは基礎・無機・有機・物理化学から各一題、計四題の筆記試験による一次選考と、与えられた課題に対し、実験の計画を練り、実験を行い、レポートを提出する形式の二次選考とに分かれており、一次選考を突破した六十名が二次に進むことが出来ます。武田君は全国二千名余りの参加者の中から見事一次選考を通過し、二次選考でも七名のみを与えられる大賞を受賞しました。

もう一つは全国物理コンテスト物理チャレンジ2007という大会です。これも二次に分かれており、こちらは両方とも筆記問題と実験問題が課されています。こちらでも武田君は銅賞に入賞しました。

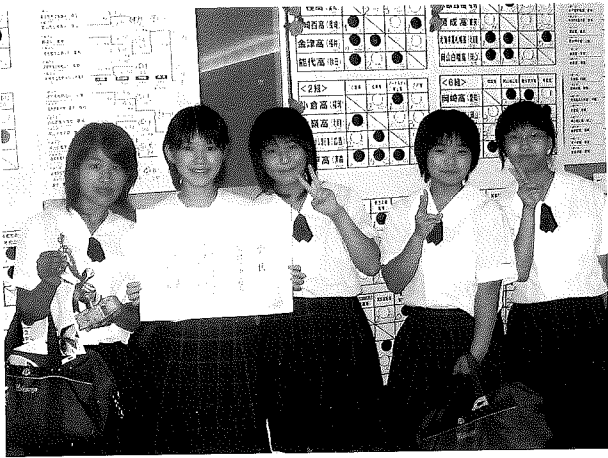
武田君によると、今回は大会よりも、物理チャレンジに参加したときにJAXAの宇宙飛行士の訓練所などを見学できたことが貴重な経験として心に残っているそうです。「二つともまだ認知度が低く、もっと沢山の人が参加してほしい」とのことでした。お子さん・知人に勧めてみてはいかがでしょうか？

・ディベート甲子園中学校全国三位!

高校も共に全国へ

本年度も岡白は中・高ともに第十二回ディベート甲子園に参加しました。

中国・四国地区予選では、今年は中学が七校、高校が十校参加で、その中から中学二校、高校五校が全国大会への出場権獲得という大変厳しい大会となりました。しかし、岡山白陵は中学が一位、高校も五位で地区大会を通過。予選途中、全国大会出場が危ぶまれた高校のメンバーの中には、主催者側から「岡山白陵高校!」と名前が読み上げられた途端、涙が浮かんだメンバーもいました。



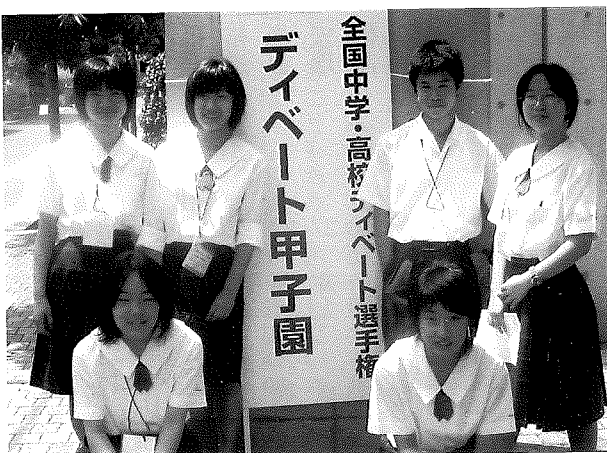
全国大会では、高校は残念ながら予選通過はなりませんでしたが、それでも素晴らしい奮闘ぶりを見せてくれましたし、中学は全国三位入賞と、中高ともにディベーターたちにとっては熱い夏となりました。

今年のディベートは中学が「日本は小売店の深夜営業を禁止すべきである。是か非か」、高校が「日本は18歳以上の国民に選挙権・被選挙権を認めるべきである。是か非か」という論題で行われました。いずれも現代社会の問題をついたものとなっています。

中学では肯定側から主に、コンビニ強盗の減少、二酸化炭素排出量の削減による地球温暖化対策効果や、青少年のたまり場の消滅による非行防止といった論点が提出されました。一方否定側からは特に女性の深夜の駆け込み場所の消滅、利便性の低下といった論点があげられ、白熱した試合が繰り広げられました。

高校では肯定側が青年の政治に対する意識向上や政治全体の活性化を主張したのに対し、否定側からは高齢者軽視の政治、勉強会の実施や選挙民の増加そのものによる大幅な選挙経費の増加、マスコミや勉強会の主催者側による思想誘導の懸念などが提示されました。

さあ、皆さんならどちらの立場を支持しますか？



寄付の御礼

前回の同窓会報において、母校の創立三十周年の記念に、同窓会より校章の碑（表紙写真参照）をお送りした旨、御報告申し上げました。同時に、この校章の碑のために御寄付のお願いを申し上げますところ、趣旨に賛同下さった三四六名の方から計一六四万五千円の御寄付を賜りました。心より感謝申し上げますとともに、ここに御披露させていただきます。（なお、失礼ながら紙面の関係上敬称は省略させていただきます。）

一万円

藤原 恒太郎

治山 正史

秋田 光寛

三木 龍太郎

西川 瑞穂

西山 成

入江 一介

佐能 正泰

蘆田 延之

粟井 一哉

亀山 真典

三木 建次郎

寺本 小百合

国重 知子

山口 剛

伊達 奈央

三好 晋爾

田中 秀和

石田 直樹

根木 快

山口 和之

蔵本 学

佐々井 崇

木下 理一郎

土畑 重人

吉田 茂宏

浅野 晃平

賀来 大輔

宋 翬

佐藤 仁思

24 松尾 優

山田 陽之

福田 雄太

賀来 良輔

出射 理絵

津島 浩

田頭 亨祐

佐藤 通洋

藤本 和也

武田 佳子

鳴瀬 雅之

三木 智代

鎌田 貴彦

山根 千佳

中尾 紗耶香

宮田 雄介

東山 健

竹本 昭生

服部 京子

山崎 穰

中谷 哲也

押部 俊治

小林 伸行

平田 龍市

鏡尾 眞希子

井上 享三

寺田 善彦

吉川 尚美

水垣 篤

浜本 八志良

飯屋 嘉彦

山本 道代

行方 淳一

細田 直紀

西川 誠一

川崎 正弘

徳田 圭亮

宮下 晋一

中谷 光宏

村木 広治

樋口 征央

川原 敏徳

西垣 建剛

大西 宗弘

三輪田 亮

植野 裕行

中治 美有紀

坂本 倫子

春日 慎一

小野 貴庸

白木 和美

前島 玲二郎

木戸 崇博

魚住 洋一

木田 昌隆

江原 雄一郎

草加 好弘

塩野 克晴

向井 理恵

17 奥本 真也

白木 一弘

長谷川 和子

木田 裕子

奥舎 久実

木村 耕介

井口 裕道

脇丸 尚徳

小林 宏瑞

坂本 信晶

西田 剛

江川 丈晴

長嶺 彩香

丸浜 伸一朗

井口 純宏

竺原 慶和

中島 憲吾

大田原 正幸

岡山 卓史

越宗 靖二郎

小野 芳子

佐々井 美緒

市川 翼

永田 雄大

小松 真一郎

大橋 勇介

佐藤 政達

秋柴 圭江

岡田 典之

大西 麻未

後山 尚士

25 立岡 伸一

岸野 英之

保永 悠介

秋柴 吏香

松尾 直昭

岡田 絵美子

天本 麻美

西村 翔

井上 亘

清水 俊匡

吉本 竹虎

五藤 みづ帆

岡本 恵太

杉浦 弘樹

高田 和幸

高崎 順子

船越 麻梨絵

濱口 太久未

大西 修

原 京子

藤原 正樹

小谷 秀昭

中山 雅博

中村 俊基

藤田 俊和

秋田 典宏

松岡 一朗

山本 由働

田中 俊行

25 大歳 展央

4 田中 俊行

一万五千円

15 村上 正泰

二万円

10 金田 邦恵

26 都藤 隆彦

三万円

21 奥山 倫弘

26 李 泰竜

14	山下	真慶	14	河崎	貴也	14	稲垣	勇人	13	上田	貴史	13	武田	拓之	13	土手	昭伸	11	羽瀨	繁	11	玉田	博	11	福富	健	11	浅見	泉	10	坂田	健太郎	10	得能	祐樹	10	山本	光輝	10	中谷	浩樹	10	大山	崇	9	原田	耕太郎	9	崎中	典子	9	岡部	裕志	9	片岸	治代	8	元江	靖憲	8	酒木	隆寿	8	青木	裕加	8	入江	史敏	8	湯ノ口	勝	8	松本	啓之	7	加藤	裕子	7	山本	徹治	7	伊原	秀臣	6	片山	明	6	嵯峨山	敦	6	柴田	澄弘	4	寺田	昌人
20	柴田	敬	20	渡部	麻実子	20	岸本	圭世	19	黒木	啓貴	19	本山	哲也	19	片山	茂郎	19	中谷	大介	19	高田	一有	19	服部	建太郎	18	東	由果子	18	原田	綾子	18	戸谷	昌樹	18	石田	隼人	17	宮本	崇広	17	山田	知生	17	畑	茂	17	萬代	優子	17	藤田	聡子	16	片山	圭一	16	萬	憲彰	16	藤田	賢吾	16	萩原	崇邦	16	沢田	成弘	15	西尾	正裕	15	仁科	雄一朗	15	藤本	圭一	15	吉田	友和	14	福島	聡一郎	14	竹内	元康	14	大塚	好	14	三宅	健一郎	14	中山	有子
24	黒川	友紀子	24	元山	晋輔	24	片山	聡	24	吉井	將哲	24	小野	由希子	24	武文	智洋	24	林	靖之	24	小池	卓志	24	木下	奈津	24	渡部	綱一郎	24	中山	恵美子	23	西岡	由紀	23	角	友一郎	23	板垣	秀弥	23	陶守	進	23	松浦	有城	23	瀧内	博也	23	内藤	洋一郎	23	山本	友也	23	金澤	智子	23	西田	知加	22	羽田	翔	22	河田	真一郎	22	金澤	典子	22	河野	由美子	22	布上	朋和	22	辻田	明子	21	赤穂	大輔	21	武田	和典	21	松井	健	21	徳山	佳子	21	志水	大輔
26	金澤	昌子	26	松三	友子	26	松田	英恵	26	山本	浩平	26	西田	江里	26	小林	由佳	26	水田	彩子	25	水瀨	麻里	25	武藤	保貴	25	竹入	仁	25	津田	真臣	25	上原	由佳	25	長尾	直	25	伊豆田	浩央	25	山根	遥香	25	古河	一輝	25	谷川	裕典	25	萬代	新悟	25	井上	明日加	25	井上	紘基	25	大谷	理浩	25	岡村	信太郎	25	小林	望	25	小野	雄里	25	池内	寛子	25	高亀	弘隆	25	大道	亮太郎	25	猪股	知子	25	森澤	友一朗	25	松下	紘子	25	榎本	剛	25	羽田	祥子
27	小田	裕太	27	猪本	尚毅	27	滝川	善之	27	上田	絵未	27	西井	豪	27	横山	裕典	27	岡本	昌士	27	和田	彩音	27	大谷	康貴	27	松原	孝明	27	服部	祐佳	27	富田	昂	27	時岡	秀行	27	小野	絵里	27	林田	佳奈	27	高亀	武弘	27	坂口	祐紀	27	中山	陽平	26	黒川	可奈子	26	横山	未來	26	笹井	俊太郎	26	大林	英元	26	守安	志織	26	小野	友也	26	松本	文雄	26	松本	真弥	26	瀧内	麻里	26	山村	知香	26	中田	智史	26	柴山	晴美	26	宮原	一彰	26	大井	勝臣
18	遠藤	雅子				28	神田	佳洋	28	塚本	名奈子	28	水瀨	蓉子	28	御船	朋代	28	寺岡	和俊	28	松田	和弘	28	片山	謙太	28	武文	浩政	28	坂内	啓介	28	藤田	光希子	28	福田	新弥	28	萬代	真央	28	和田	周	28	西	智彦	28	河野	珠央	28	司波	明宏	28	松三	潤	28	山本	啓介	27	西田	早希	27	高橋	芳都	27	松原	聡一郎	27	梶田	彩人	27	吉田	麻里子	27	浅木	昌幸	27	原田	慶一	27	伊達	好孝	27	山根	真由									

二千元

速報!! 平成20年度 大学入学試験合格者数

(3月10日判明分まで)

国公立大学	18年	19年	20年
東京大学	23	13	9
京都大学	9	3	5
大阪大学	8	8	6
北海道大学	2	1	0
東北大学	3	3	0
名古屋大学	1	3	2
九州大学	3	6	3
一橋大学	4	1	0
神戸大学	1	9	2
岡山大学	18	16	19
他国公立大学	65	45	28
国公立大学計	137	108	74
(内 医学部)	(36)	(31)	(27)

私立大学	18年	19年	20年
早稲田大学	38	13	14
慶應義塾大学	25	18	10
中央大学	12	11	4
明治大学	16	8	3
東京理科大学	11	6	9
関西学院大学	29	15	8
関西大学	8	4	3
同志社大学	14	14	14
立命館大学	18	11	7
大阪医科大学	9	2	1
他の私立大学	97	101	92
私立大学計	277	203	165
(内 医学部)	(33)	(21)	(21)
卒業生数	185	173	172

重要なお知らせ

同窓会では同窓会名簿の発行を今年十一月ころに予定しています。それに際し役員会では、よりスムーズなデータ管理をとる観点から、信頼のおける業者に一括して委託するのが妥当だろうと決議しました。また、その会社としては、小野高速印刷株式会社(本社 姫路市)を考えております。小野高速印刷は全国七〇〇校を超える学校の同窓会名簿を手がけ、高いセキュリティ意識を持つ会社として、同窓会の情報をお任せできるものと役員会で判断しました。現在、その方向で小野高速印刷と協議に入っております。

今後、同窓会名簿の作成に入ります。その第一段階として、今回の会報には住所調査票を同封しました。個人情報報の掲載はちよつと...という方も、今後の同窓会活動に必要なものですので、是非御返送下さい。掲載の可否はこの調査票でお知らせいただけます。また、住所確認や住所不明者の照会のため、会社から電話で問い合わせをさせていただきますことがあります。その際には、岡山白陵高校の名ばかりでなく、必ず「小野高速印刷株式会社」という名前で御連絡申し上げますので、ご了承下さい。なお、それ以外の会社からの照会には決して応じないよう、併せてお願い申し上げます。

職員の移動

御退職

- 住田優香利先生(英) H 7・4 ↓ 18・8
 - 藤原さとこ先生(数) H 17・4 ↓ 19・3
 - 藤田 彩人先生(数) H 18・4 ↓ 19・3
 - 成本喜三夫先生(数) H 4・4 ↓ 19・8
 - 日浦 真耶先生(国) H 12・4 ↓ 19・3
 - 竹井 奈穂先生(養) H 16・4 ↓ 19・3
 - 藤田まち子先生(司) H 15・4 ↓ 19・3
- 御着任
- 辻 博文先生(英) H 19・4 ↓
 - 寶木 道郎先生(数) H 19・4 ↓
 - 浅野 裕司先生(数) H 19・4 ↓
 - 福田 雄太先生(数) H 19・4 ↓
 - 中尾 祐介先生(国) H 19・4 ↓
 - 太田 優美先生(養) H 19・4 ↓
 - 澤田 千香先生(司) H 19・4 ↓

編集後記(お詫び)

今回の会報は、計画段階では昨年末にお届けすることにしておりましたが、名簿発行に関係して予定変更となり、この時期のお届けとなりました。そのため、今回のためにお寄せいただいたコメントに、一部日付の面で読みづらい箇所が発生してしまいました。快く寄稿下さった方には大変失礼なことと、この場をもちまして深くお詫び申し上げます。また、同窓会会員の皆様にもおことわりさせていただき、併せてご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。